

【82 例目】群馬県（桐生市）における  
豚熱の患畜確認農場の現地調査概要

令和4年6月16日の拡大豚熱疫学調査チームによる現地調査の概要は以下のとおり。

（1）農場の概況

- ① 当該農場は、平野部に位置し、農場の周辺には田畑が存在していた。
- ② 農場から約9kmの地点で豚熱に感染した野生イノシシが本年5月に確認されていた。周辺ではイノシシの掘り返し等は確認されなかった。
- ③ 当該農場は分娩舎、ストール舎、候補豚舎計10畜舎（いずれも開放豚舎）からなる繁殖農場で離乳豚を出荷していたが、出荷先で豚熱が発生したため離乳豚が滞留しており、分娩舎の一部や候補豚舎で離乳豚を飼養していた。発生は分娩舎の離乳豚で確認された。

（2）飼養衛生管理関係

- ① 当該農場の衛生管理区域は公道で3つに区切られており、区域間を移動する際は公道を通過する必要があった。
- ② 当該農場では専門の従業員11名が飼養豚の管理に従事しており、分娩舎・ストール舎各5名、滞留した離乳豚を飼養する候補豚舎1名の担当に分けられていた。
- ③ 従業員は衛生管理区域に隣接する事務所で農場専用衣服、長靴に更衣し手指を消毒した後、農場に立ち入っていたが、異なる衛生管理区域に行くため公道を通過した後に消毒・更衣はしていなかった。
- ④ 各豚舎に立ち入る際は農場専用長靴で豚舎内に立入り、豚舎内用長靴に履き替え踏み込み消毒を実施していたが、衣服の更衣はしていなかった。分娩舎に立ち入る際は手袋を着用し手指消毒していた。異なる分娩舎に移動する際も手袋を交換し消毒を実施していた。
- ⑤ 車両消毒用の動力噴霧器は出入口とは異なる場所に設置されており、飼料会社や出荷用の車両は農場従業員による消毒の後、公道を通過して衛生管理区域内に入っていた。また、農場内の車両が通行する箇所は1週間に1回程度、石灰を散布しているとのこと。
- ⑤ 豚を豚舎間で移動する際は移動用ケージを使用していたが、屋根付きの豚舎間通路が設置された一部の豚舎間は母豚を歩行させていた。移動用ケージ、通路は使用前後に消毒していた。
- ⑥ 農場では主にパイプラインで自動給餌していたが、ラインが接続していない一部の豚舎は手給餌していた。
- ⑦ 飼養豚への給与水や農場内で使用する水は、井戸水と水道水を使用していた。井戸水の消毒や水質検査は行っていなかった。
- ⑧ 豚舎の一部で金網やカーテンの破損が確認された。
- ⑨ 糞尿は、固液分離され、糞は農場内の堆肥施設で堆肥化し、汚水は浄化槽で処理していた。堆肥施設に防鳥ネットが設置されていた。
- ⑩ 豚の死体は各豚舎内でポリバケツに保管し、週3回業者が回収に来場した際、農場所有の重機に移し、公道で受け渡していた。
- ⑪ 豚舎毎のオールアウトは行っていないが、母豚と離乳豚が移動した後の分娩房については洗浄・消毒を行い、2日以上は空けた上で次の妊娠豚を入れるようにしていた。

### (3) 野生動物関連

- ① 衛生管理区域の周囲は高さ約1メートルのワイヤーメッシュ柵でおおわれていた。農場出入口には移動式のワイヤーメッシュ柵が設置されており、使用時以外は閉鎖していたが、周囲の柵との間に間隙が認められた。
- ② 除草は1カ月に1回程度とのことで、柵の一部は蔦が覆っていた。
- ③ 衛生管理者によれば、農場周囲でイノシシ・シカを目撃したことはないとのこと。また、農場周囲でイタチのような中小動物を見かけることはあるが、農場内では見ないとのこと。
- ④ 衛生管理者によれば豚舎内ではネズミが頻繁に確認されるため、殺鼠剤や粘着シートによる対策を行っていたとのこと。調査時に豚舎内で生きたネズミ及びネズミの死体を複数確認した。

### (4) 臨床症状の経過

- ① 当該農場はワクチン接種前の離乳豚を出荷していたが、5月10日に出荷先の離乳農場で81例目の豚熱が発生したことから離乳豚が滞留しており、当該農場において概ね30~40日齢で豚熱ワクチンを接種していた。ワクチン接種は2週間毎に管理獣医師が行っていた。
- ② 6月上旬より離乳豚の一部で軽度の下痢や活力減退が確認されていたが、衛生管理者や管理獣医師によれば、従来離乳豚用ではない畜舎で離乳豚を飼養していることによる温度管理の不備等によるものと考えていたとのこと。
- ③ 6月14日に豚熱ワクチン接種のため管理獣医師が来訪した際、離乳豚の症状について飼養担当者から相談があったため、獣医師が観察したところ、分娩舎で飼養するワクチン未接種の30日齢前後の離乳豚でパイルアップ、チアノーゼ、目やに等が確認され豚熱を疑ったことから、家畜保健衛生所に病性鑑定を依頼したとのこと。
- ④ 調査時、発生豚舎の哺乳豚・離乳豚については殺処分された後であったが、分娩舎の一つで離乳豚の発育不良、数頭の死亡を確認した他、離乳豚のみを集め飼育している候補豚舎（ワクチン接種・未接種が飼養）では豚舎内で広くパイルアップや死亡を確認した。繁殖豚、哺乳豚で異常は認められなかった。

(以上)